

平成 28 年 9 月 吉日

各 位

OATアグリオ株式会社

「カリュードジャンボ」適用拡大のご案内

拝啓

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のお引き立てをいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、かねてよりご協力を賜りました除草剤「カリュードジャンボ」が平成 28 年 9 月 7 日付けにて適用拡大登録となりましたので、下記のとおりご案内申し上げます。

今後とも、皆様のご指導ご支援のほど、宜しくお願い申し上げます。

敬具

記

商品名	:	カリュードジャンボ (第 2 3 3 2 0 号)	
有効成分・%	:	ピラクロニル・・・・・・・・・・・・・・・・	3.6%
		ベンゾビシクロン・・・・・・・・・・・・・・・・	4.0%
		ベンゾフェナップ・・・・・・・・・・・・・・・・	14.5%

登録年月日 : 平成 28 年 9 月 7 日 (登録拡大)

<1>適用内容の変更:

- ・ 適用雑草名の追加: オモダカ、クログワイ
- ・ 「直播水稻」を追加

【変更後の適用表】

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ <u>オモダカ</u> <u>クログワイ</u> ミズガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植後 5 日～ ノビエ 2.5 葉期 ただし、移植後 30 日まで	小包装 (パック) 10 個 (500g) /10a	1 回	水田に 小包装 (パック)の まま投げ 入れる。
直播水稻	<u>水田一年生雑草</u> 及び <u>マツバイ</u> <u>ホタルイ</u> <u>ウリカワ</u> <u>ヒルムシロ</u> <u>ミズガヤツリ</u>	<u>稲 1 葉期～</u> <u>ノビエ 2.5 葉期</u> <u>ただし、</u> <u>収穫 90 日前ま</u> <u>で</u>			

ピラクロニルを含む 農薬の総使用回数	ベンゾビシクロンを含む 農薬の総使用回数	ベンゾフェナップを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内

＜2＞注意事項等の変更

使用上の注意事項

【変更後】

- (1) 本剤は雑草の発生前から発生始期に有効なので、ノビエの2. 5葉期までに時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワでは2葉期まで、ヒルムシロでは発生期まで、オモダカ、クログワイでは発生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離では発生前が本剤の散布適期である。また、クログワイは発生期間が長く、遅い発生のものまでは十分効果を示さないので、必要に応じて有効な後処理剤と組み合わせて使用すること。オモダカは、必要に応じて有効な前処理剤または後処理剤と組み合わせて使用すること。
- (2) 散布に当たっては、水の出入りを止め5～6cmの湛水状態に保つこと。
本剤散布後、少なくとも3～4日間は通常湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。
- (3) 本剤は小包装（パック）のまま、10アール当たり10個の割合で水田に均等に投げ入れること。
- (4) 藻や浮き草が多発している水田では、拡散が不十分となり効果の劣る可能性があるので使用をさけること。
- (5) パックに使用しているフィルムは水溶性なので、ぬれた手で作業したり、降雨で破袋することがないように注意すること。
- (6) 下記のような条件では、初期の生育抑制やクロロシスを生じるおそれがあるので、使用をさけること。
特に、これらの条件が重なる場合は、初期生育が著しく抑制されるので注意すること。
 - ・異常高温の時、あるいは散布後数日以内に梅雨明けになるなど異常高温が予想される時
 - ・活着遅延を生じるような異常低温の時
 - ・砂質土壌の水田及び漏水の大きな水田(減水深 2cm/日以上)
 - ・軟弱な苗を移植した水田
 - ・極端な浅植または極端な深水になった水田
 - ・植え穴の戻りが悪い水田
- (7) 苗の植付けが均一となるように、代かき、均平化及び植付作業はていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行うこと。
- (8) 稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので使用しないこと。
- (9) 著しい降雨が予想される場合には除草効果が低下するおそれがあるので散布を控えること。
- (10) 本剤は、その殺草特性から、いぐさ、れんこん、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (11) いぐさ栽培予定水田では使用しないこと。
- (12) 本剤散布後の田面水を他作物に灌水しないこと。
- (13) 空き袋等は圃場などに放置せず、適切に処理すること。
- (14) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。